2. 海離れ傾向への懸念〔2011年海に対する国民意識調査から〕

国土交通省

●「海が好き」が64.7%と初めて７割を下回る。

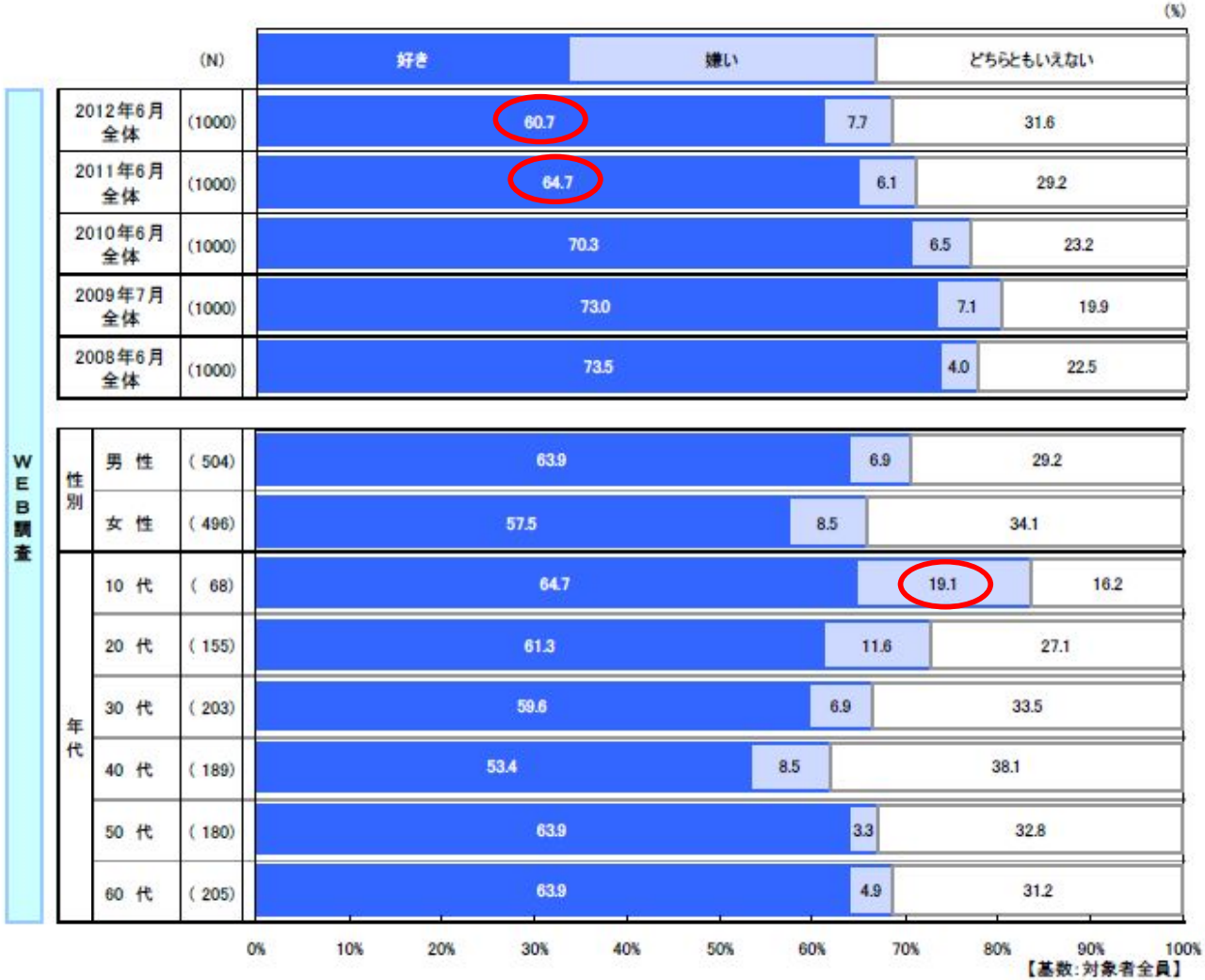
● 東日本大震災の海に対する意識の変化ー「恐怖・脅威」が約半数で、「海の好感度」の低下に影響。

「海が好き」と回答した人は４年前の73.5%から64.7%と大きく減少。東日本大震災の影響があると思われるものの、初めて７割を下回った。10代の「海が嫌い」の理由は「日焼け」、「水着になるのが嫌だから」、「泳げないから」がトップ３。

震災後の海に対する印象は、「変わらない」との回答は約2割あったが、「怖い、恐ろしい、脅威」といった回答が全体の半数近くに上った。震災は人々の海に対する意識へ大きな影響を与え、「海の好感度」低下の大きな要因となっている。

2. 海離れ傾向への懸念 〔2012年海に対する国民意識調査から〕

国土交通省



●「海が好き」と回答した人は2011年の64.7%から60.7%に減少。
●逆に「海が嫌いと回答した人は6.1%から7.7%に増加。
●「嫌い」の割合は、特に10代については5.9ポイントと大幅な増加。

海が嫌いな理由を述べた人の中で「危険／海は怖い」と「津波が怖い／震災の影響」と答えた人の合計が昨年の「危険／海は怖い」と答えた人の数と同数だが、「津波が怖い／震災の影響」が特記され、より具体的な震災・津波の影響が見て取れることから、東日本大震災の影響が引き続いていると言えよう。

2. 海離れ傾向への懸念 〔レジャー白書のデータから〕

国土交通省

図表1-17　余暇活動の参加人口の推移

（万人）

	(イ)スポーツ部門	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
1	ジョギング、マラソン	2,780	2,700	2,620	2,120	2,390	2,280	2,550	2,810	2,570	2,590
2	体操（器具を使わないもの）	3,460	3,500	3,070	2,300	2,100	2,140	2,230	2,950	2,660	2,710
3	トレーニング	1,460	1,590	1,550	1,140	1,270	1,440	1,310	1,940	1,840	1,720
4	エアロビクス、ジャズダンス	590	450	510	440	520	480	510	600	510	550
5	卓球	1,190	1,180	1,270	860	780	690	810	1,050	860	840
6	バドミントン	1,140	1,120	1,190	840	930	740	920	1,040	890	830
7	キャッチボール、野球	1,750	1,490	1,690	1,250	1,200	1,140	1,260	1,120	920	810
8	ソフトボール	710	570	650	450	440	410	400	480	340	410
9	サイクリング、サイクルスポーツ	1,350	1,570	1,490	930	870	990	960	1,520	1,360	1,210
10	アイススケート	300	290	260	220	280	240	200	280	210	170
11	ボウリング	3,320	3,180	3,200	2,760	2,510	2,510	2,350	2,210	1,780	1,690
12	サッカー	850	770	760	710	680	630	670	660	580	580
13	バレーボール	800	770	770	520	600	530	620	710	610	540
14	バスケットボール	460	500	560	400	420	400	440	540	480	470
15	水泳（プールでの）	2,180	2,080	2,200	1,640	1,610	1,550	1,450	1,620	1,400	1,290
16	柔道、剣道、空手などの武道	220	310	260	230	220	200	210	280	230	270
17	ゲートボール	140	100	120	100	90	90	90	70	70	100
18	ゴルフ（コース）	1,040	1,080	1,030	1,080	890	830	950	960	810	800
19	ゴルフ（練習場）	1,160	1,080	1,160	1,040	880	810	950	1,060	880	920
20	テニス	910	770	840	730	670	570	650	750	750	680
21	乗馬	40	40	60	30	20	20	60	70	70	90
22	スキー	1,090	760	760	710	610	560	690	720	570	630
23	スノーボード	540	430	470	520	420	400	440	420	400	340
24	釣り	1,670	1,470	1,490	1,070	1,290	1,150	1,120	1,050	940	930
25	スキンダイビング、スキューバダイビング	130	130	110	110	140	170	100	170	180	130
26	サーフィン、ウインドサーフィン	130	100	110	180	110	120	120	60	80	60
27	ヨット、モーターボート	80	100	90	90	70	60	40	80	50	70
28	ハンググライダー、パラグライダーなど	20	10	30	20	30	10	10	20	20	50

図表1-17　余暇活動の参加人口の推移

（万人）

	(ニ)観光・行楽部門	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
1	遊園地	3,550	3,160	3,170	2,930	2,760	2,860	2,780	3,160	2,770	2,100
2	ドライブ	5,940	5,560	5,570	5,220	5,110	5,130	5,140	6,740	6,290	5,360
3	ピクニック、ハイキング、野外散歩	3,410	2,750	2,750	2,620	2,620	2,630	2,470	3,690	3,380	2,330
4	登山	880	650	650	660	550	570	590	1,230	1,070	810
5	オートキャンプ	680	660	660	470	520	520	510	480	430	310
6	フィールドアスレチック	350	310	310	250	260	280	250	360	240	150
7	海水浴	2,370	1,890	1,900	1,940	1,850	2,040	1,890	1,680	1,480	910
8	動物園、植物園、水族館、博物館	4,270	4,040	4,050	3,930	3,820	4,170	4,030	5,040	4,800	3,720
9	催し物、博覧会	2,310	2,050	2,050	2,420	2,100	2,060	2,100	3,070	2,840	2,010
10	帰省旅行	2,300	2,310	2,310	2,510	2,420	2,320	2,340	2,800	2,660	2,380
11	国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）	6,310	5,890	5,900	5,830	5,720	5,700	6,020	6,390	6,150	5,580
12	海外旅行	1,240	960	970	1,290	1,000	1,080	950	1,710	1,500	1,480

レジャー白書2012

- 震災後初めてのレジャー活動の参加率、参加人口等を調査したもの
- 余暇活動の参加人口の推移を見ると、スポーツ部門で海関係は低め安定な上、参加人口の減少の度合いも大きくなっている傾向。更に、観光・行楽部門でも海水浴参加人口は2011年に大きく減少。

2. 海離れ傾向への懸念 〔レジャー白書のデータから〕

国土交通省

図表1-13　性・年代別余暇活動参加率の特徴（2011年）

（単位:%）

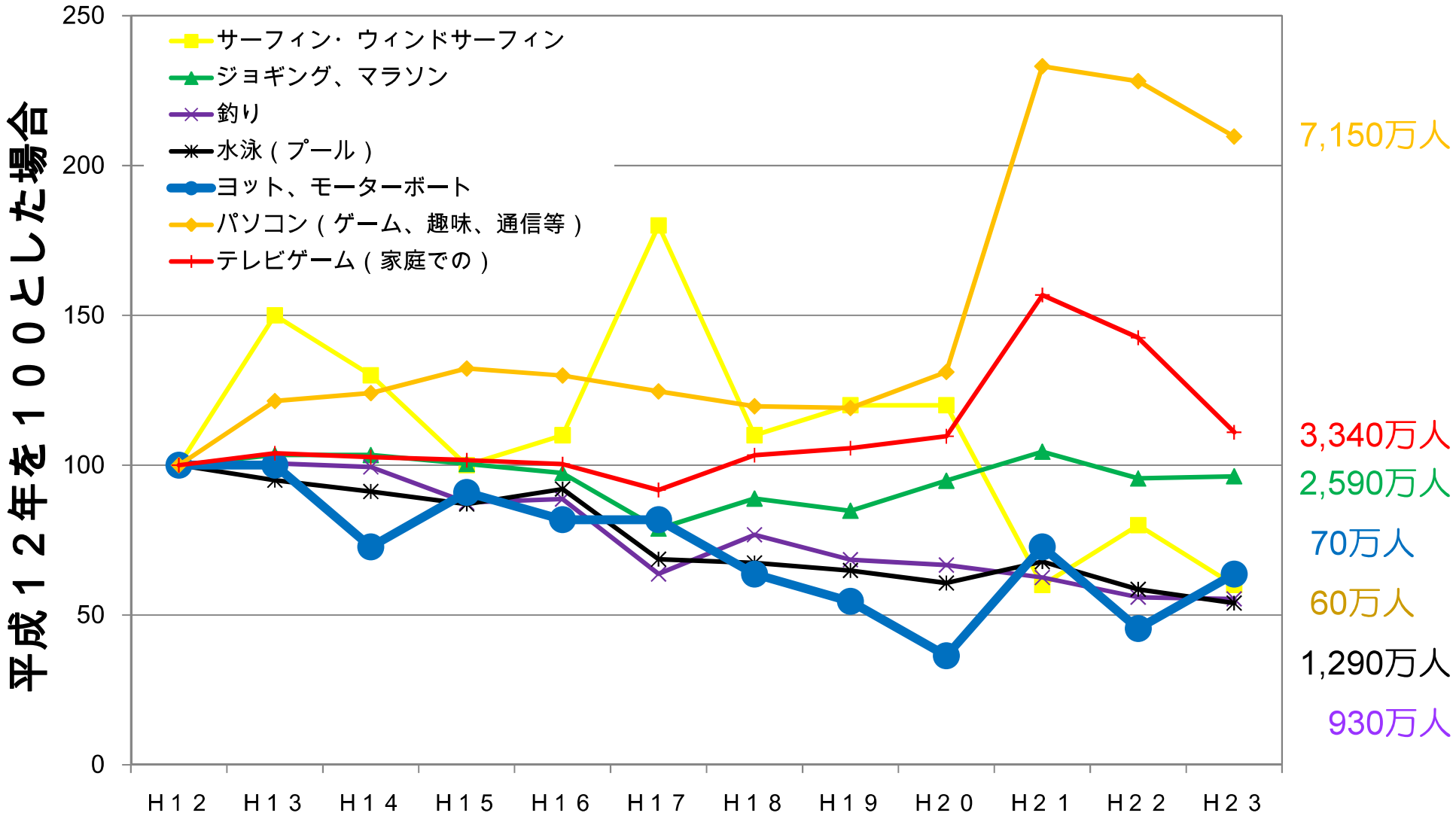
	(二)観光・行楽部門	全体	男性							女性						
			男性計	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	女性計	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
		n=3294	1642	109	216	274	273	269	501	1652	100	208	278	270	251	545
1	遊園地	20.5	17.4	21.1	19.9	21.2	20.1	11.9	14.8	23.7	42.0	35.6	32.7	17.8	15.9	17.6
2	ドライブ	52.4	51.2	16.5	38.4	54.0	53.1	56.1	58.9	53.7	32.0	53.4	60.8	52.2	55.0	54.3
3	ピクニック、ハイキング、野外散歩	22.8	21.3	7.3	11.6	14.6	18.7	20.4	33.9	24.3	12.0	17.8	24.8	21.9	20.3	31.7
4	登山	7.9	9.0	6.4	8.8	8.8	7.0	9.3	10.8	6.8	10.0	6.3	6.8	4.8	6.4	7.7
5	オートキャンプ	3.0	3.5	2.8	2.3	3.6	5.9	3.7	2.6	2.5	1.0	1.9	4.0	4.1	2.0	1.8
6	フィールドアスレチック	1.5	1.4	2.8	1.4	2.2	1.8	0.7	0.8	1.6	1.0	1.4	4.0	2.2	0.8	0.6
7	海水浴	8.9	9.0	7.3	8.8	10.9	13.6	6.3	7.2	8.8	8.0	15.9	16.2	8.1	5.6	4.4
8	動物園、植物園、水族館、博物館	36.3	30.6	16.5	27.8	33.6	27.5	31.2	34.5	42.0	29.0	50.5	48.2	38.5	32.7	44.0
9	催し物、博覧会	19.6	14.7	10.1	6.0	9.5	12.1	18.2	21.8	24.4	9.0	15.4	23.7	17.4	26.7	33.4
10	帰省旅行	23.2	21.4	24.8	27.8	23.4	24.9	20.1	15.8	25.0	19.0	31.3	34.2	26.3	27.5	17.2
11	国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）	54.5	50.8	23.9	43.1	47.8	49.1	51.7	62.1	58.2	43.0	54.8	56.5	49.6	56.2	68.3
12	海外旅行	14.5	11.2	3.7	8.8	10.9	7.0	11.2	16.4	17.7	11.0	17.8	12.9	11.9	24.7	21.1

レジャー白書2012

●海水浴参加率の年代別データを見ると、特に10代、20代（男性）の参加率が小さい。

2. 海離れ傾向への懸念 〔レジャー参加の傾向分析〕

国土交通省



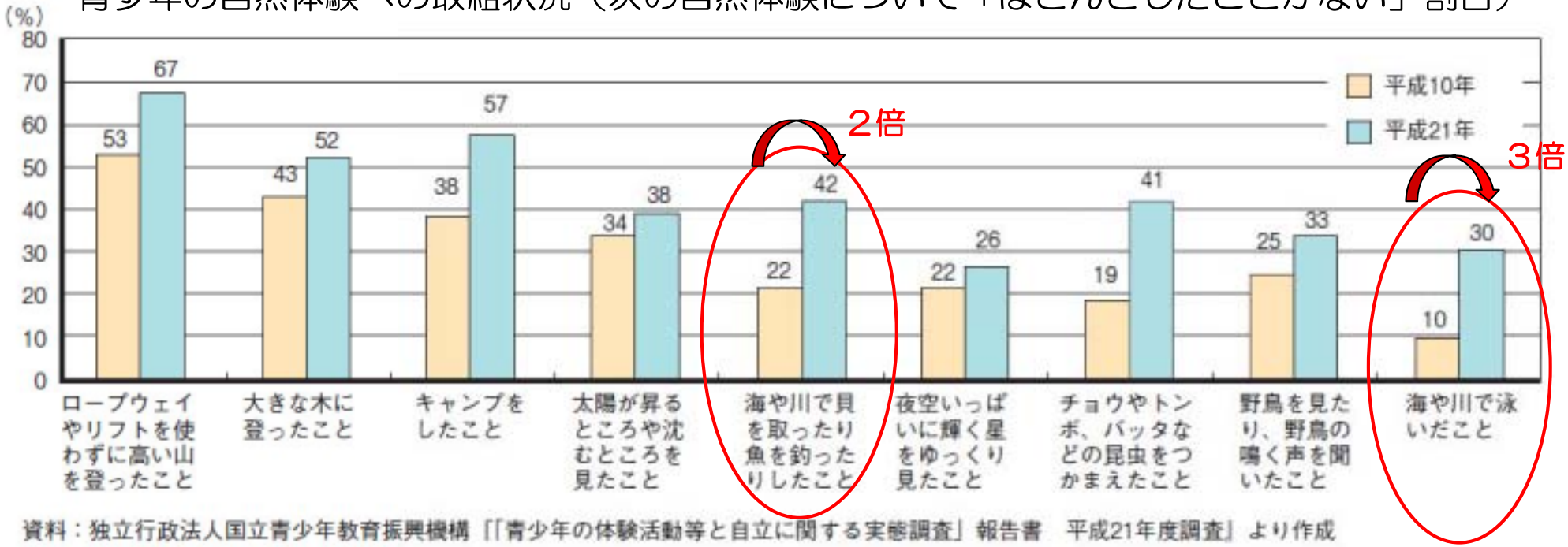
マリン関係への参加人口は減少傾向。他方、パソコンやテレビゲーム等のバーチャルなレジャーは増加傾向

2. 海離れ傾向への懸念 〔実体験の減少〕

国土交通省

子ども・若者白書（平成24年度）

青少年の自然体験への取組状況（次の自然体験について「ほとんどしたことがない」割合）



資料：独立行政法人国立青少年教育振興機構「「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」報告書　平成21年度調査」より作成

遊びやスポーツに実体験のない子ども・若者が増加

2. 海離れ傾向への懸念 〔まとめ〕

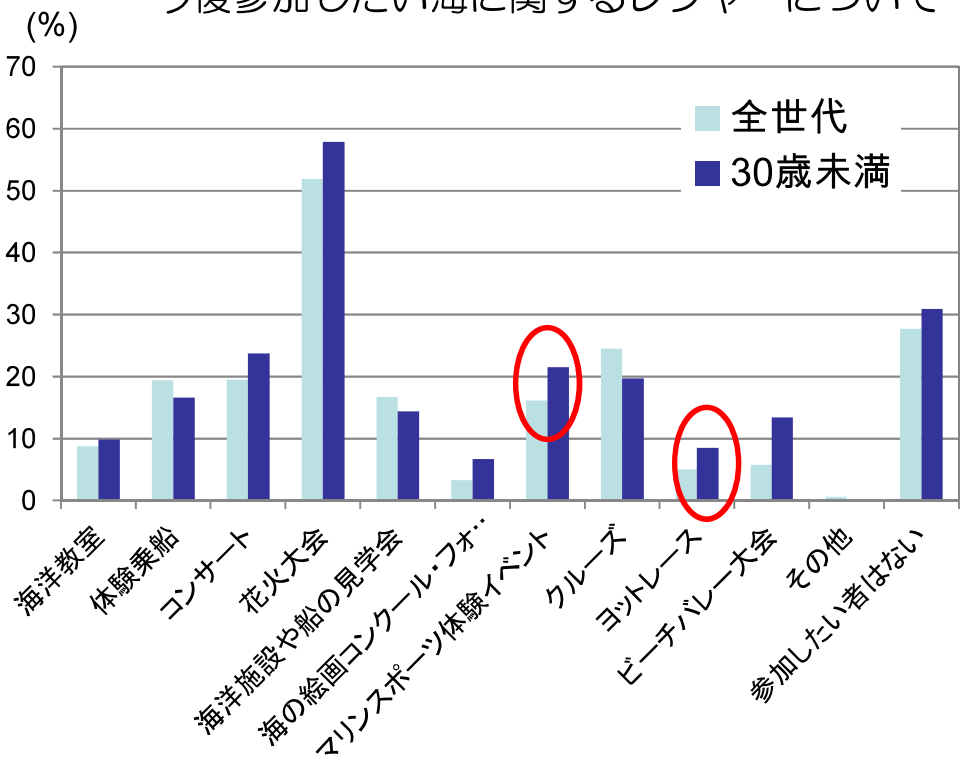
国土交通省

- 海離れの傾向が一部に顕在化
- 国内マリンレジャーは、特に子供の海離れによって将来的に大きな影響を受ける可能性がある。
- 20～30歳になってからの体験では遅すぎ。

3. 何をすべきか 〔マリンレジャーへの潜在的需要の引き出し〕

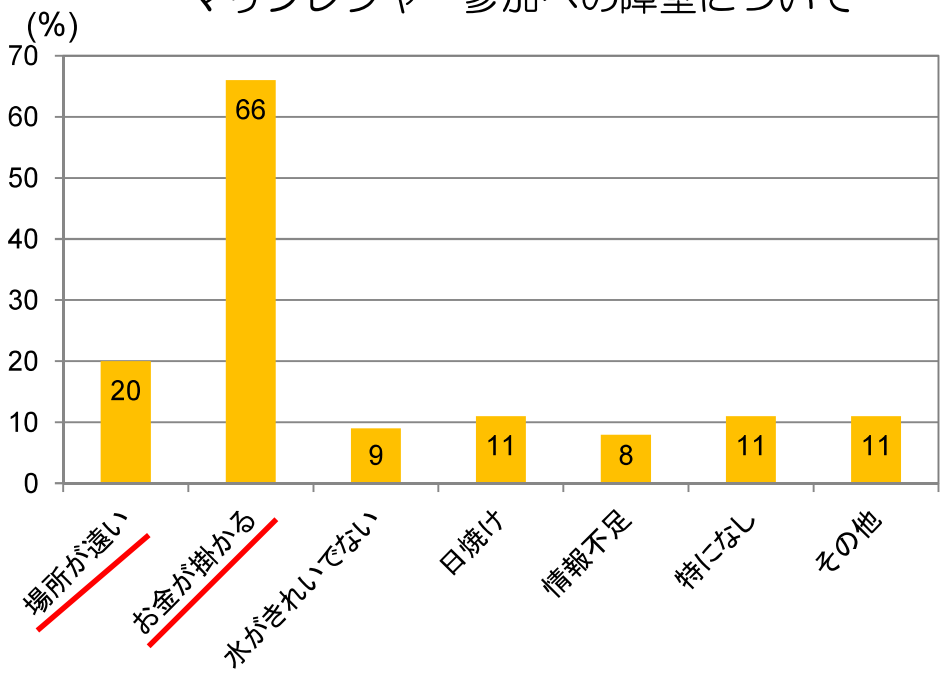
国土交通省

今後参加したい海に関するレジャーについて



（財）日本海事センター「海に関する国民意識調査2012」

マリンレジャー参加への障壁について



舟艇室調べ「マリンレジャーに対する意識調査」

・若者にはマリンスポーツ体験やヨットレース等の潜在的需要がないわけではない。

・参加の障壁になるのは、費用の問題や場所が遠いこと

・潜在的需要のキャッチアップに工夫が必要

国土交通省

連携して効果を上げる

UMI協議会

- マリン関連15団体が参加
- マリンレジャーが「誰でも気軽に安心して楽しめる」ものであることを広く発信
- 「海に（U）みんなで（M）行こう（I）」を合言葉に海をより身近に感じることができる社会の実現を目指す。
- 各団体が有する既存のストック・リソースを有効活用できる体制を構築

NPO法人　海の駅ネットワーク

海なでしこ

(社)日本舟艇工業会

(財)マリンスポーツ財団

(財)日本海洋レジャー安全・振興協会

(財)日本セーリング連盟

(社)レジャー・スポーツダイビング産業協会

日本ジェットスポーツ連盟

マリンジャーナリスト会議

(社)日本サーフィン連盟

3. 何をすべきか〔成功事例「九州UMIアカデミー」②〕

国土交通省

複数の地域マリンスポーツ団体等が実行委員会形式で、各団体の強みを活かし、総合的ウォータースポーツ（海洋教育含む）事業を実施すること。

※一過性の事業ではなく、助成金に頼らず継続的に実施できる運営体制の確立

⇒　2012年度には助成金に頼らずに開催

◆実行委員会 構成団体

NPO法人 海の駅ネットワーク
福岡地区マリンスポーツ実行委員会
NPO法人 マリゾンビーチスポーツクラブ
国土交通省　九州運輸局
財団法人 日本海洋ﾚｼﾞｬｰ安全振興協会
西福岡マリーナ　マリノア
東京海洋大学
公益財団法人 笹川スポーツ財団